

10 平成31年度・令和元年度 金山町地域包括支援センター事業報告

《基本事項》

高齢者が住み慣れた地域で、安心して尊厳あるその人らしい生活を継続していく事ができるように、関係機関と連携を図りながら、中心的な役割を担えるように、主体的に取り組む。

《重点事項》

1. 認知症高齢者対策の推進

① 平成30年度に実施した調査を元に、認知機能の低下がみられ、生活に支障が見られる人を早期に発見し、チーム員会議で検討しながら対応していく。

訪問や情報提供により、認知機能の低下が見られる人を発見しチーム員会議を開催した。今年度は、新規2事例、継続ケース3事例を、認知症サポート医、看護師、町、包括で情報を共有しながら支援方針を検討し、専門医の受診やサービス利用継続、また、家族との同居や、施設入所にもつながった。

② 認知症になっても、住み慣れた町で生活できるように、地域の体制作りに努める。

訪問により状況把握や経過観察を通し、サービスや集まりの場の必要性を町へ提言した。

2. 地域ケア会議・自立支援型地域ケア会議の充実

① 個別ケースに対して、他職種と連携を図り、課題解決、対応していくことで、地域作りに繋げる。

自立支援型地域ケア会議を開催し、8事例実施した。専門職の助言を頂き、サービス計画に組み入れ、自立に向けた支援ができた。

また、6月18日の地震に伴い、状況把握の訪問を実施し、災害時について町と話し合いをもち、今後の災害時の対応を検討した。

② 現在、地域課題になっている、冬期間の生活の場の確保についても、関係機関と連携しながら、実現にむけていく。

上横田高齢者共同住宅を広く町民に周知するため、おためし企画を立案し、男性（2名）女性（7名）の参加があった。その結果として、見守り者がいない事の不安、料理をしなければいけない事、他入所者と共同生活できるか、自宅の雪の心配等があり、今年度も入所者はいなかった。

3. 介護予防の取り組み

- ① 高齢者が住み慣れた町で暮らし続けられるよう、自立支援の視点から、高齢者自身の能力を最大限に生かし、利用者本人が主体的な生活を送る事ができるように支援していく。

地域リハビリ支援事業を実施し、理学療法士による訪問（31名）やデイサービスへの指導、助言を頂き、在宅生活が継続できるようにした。その後、自宅で自主的に運動したり、デイサービスでも体操等を取り入れ、筋力、体力の強化に努めた。

4. 総合相談支援

- ① 高齢者が安心して生活が続けられるよう、介護保険サービスだけでなく、医療や福祉等の地域の社会資源を活用し、高齢者の生活支援にあたる。

高齢者、家族から相談を受け訪問し情報を把握し、介護サービスや集まりの場への参加、配食サービスの提案をした。また、受診が必要な人に対しては、医療と連携しながら支援にあたった。

5. 権利擁護業務

- ① 高齢者の尊厳と権利を守るために、様々な制度を活用し、関係機関と連携し、地域で安心して生活が送れるようにしていく。

障害者の生活の継続、高齢者に対しては成年後見制度等、町や専門職と情報を共有し対応した。